

月間市況等報告集計表 (6年 11月分)

1. 生鮮食料品等の市況

富山中央青果株式会社

(1) 市況の概要

※. 入荷数量=t 比=% 平均単価=円

種類	市況の概要	入荷数量	前年同月比	kg当り 平均単価	前年同月比
			前月比		前月比
野菜	11月中旬まで全国的に暖かい日が続き、下旬より気温が下がり始めた。生育期に猛暑の影響を受けた品目も多く、全般的に平年よりも入荷量は少なかった。果菜類は端境期でもあり、高値ベースで乱高下した品目が多く、土物類も作柄不良で在庫確保の動きが強まった。鍋商材の、大根やネギも、高温障害で数量少ない中、堅調な相場が続いた。	1,695	103%	271	118%
			98%		101%
果実	秋冬果実が全般的に数量減、単価高となった。要因として夏場の干ばつ、初秋の高温での日焼け果や、カメムシ等の被害で数量が減り全国的に引き合いが強くなった。	976	100%	349	112%
			130%		100%

(2) 主要品目の市況

※. 入荷数量=t 比=% 平均単価=円

主要品目	市況の概要	入荷数量	前年同月比	kg当り 平均単価	前年同月比
			前月比		前月比
野	だいこん 富山県産新川の販売で3L、2L中心の流れ。入荷も安定し相場も崩れる事なく高値をキープしていた。新川は11月が入荷のピークで12月に入れば2週目半ばには終了し、千葉、鹿児島と切り替わっていく。	249	84%	119	161%
			121%		92%
菜	にんじん 富山産入荷不安定の中、MS中心と小玉の割合も多く、2L・Lなど単価高での推移となった。品質については特に問題なく販売することが出来た。	64	50%	164	107%
			75%		130%
菜	はくさい 長野から茨城メインの販売に切り替わった。葉物全体に共通して起きた高温障害の中、館林農協からくる系統の白菜を受けた為、安定入荷、安定販売となった。相場は例年の安値に落ちることなく高値で推移。	166	175%	100	141%
			224%		86%
菜	馬鈴薯 北海道産の販売(きたみらい・土幌・ようてい) L中心の流れ、全体的に入荷が薄い。引き合いが強くと単価高。	145	153%	146	129%
			88%		127%
菜	たまねぎ 北海道産の販売(きたみらい・そらち南・岩見沢) L大中心の流れ、全体量が少ないため引き合いが強くと単価高。	289	118%	122	67%
			87%		122%
果	早生みかん 和歌山県主体の入荷、全国的にみかんの出荷量が少なく高値で推移。	368	100%	325	119%
			226%		103%
果	サンふじ 山形県産主体の入荷、中生種が早く出荷が終了してサンふじの出荷に期待していたが、色付の遅れから出荷量が少なく高値で推移。	18	100%	416	100%
			78%		93%
実	柿 新潟産中心の入荷。和歌山県産がカメムシの被害等で下級品が多く、出荷量も減少。新潟のおけさ柿を中心に引き合いは強かった。	67	134%	342	102%
			114%		100%
実	アールスメロン 石川、熊本県産の入荷。一部で土壌に菌が入り、出荷が出来ない所もあったが堅調な販売であった。	1	100%	814	94%
			100%		127%
実	バナナ 日本への入荷増により単価安になった。今年末まで影響ある模様。	256	86%	208	107%
			113%		94%

2. 取扱品目の卸売実績

(金額:税込み)

種類	数量(kg)			金額(円)			
	受託	買付	計	受託	買付	計	
野菜	一般野菜	1,113,725	581,495	1,695,220	335,778,828	160,410,068	496,188,896
	加工野菜			0			0
	花き						
	その他						
	計	1,113,725	581,495	1,695,220	335,778,828	160,410,068	496,188,896
果実	一般果実	439,807	535,865	975,672	204,739,016	163,408,989	368,148,005
	加工果実			0			0
	その他						
	計	439,807	535,865	975,672	204,739,016	163,408,989	368,148,005
合計	1,553,531	1,117,360	2,670,892	540,517,844	323,819,057	864,336,901	